

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 65 号

2016 (平成28) 年8月20日 (土)

ぎやつきょう た 逆境から立ちあがる

じよりゆう が か みつはし せつこ
一 女流画家 三橋 節子

てらこや ろんごじゆく しゅさい につた おきむ
寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

人間にとって、右腕を失うことはどれ程の衝撃であろうか。しかも、それが画家となると、その精神的苦痛や動揺は想像を絶するものがある。しかし、その絶望のどん底から見事に立ち上がった画家がいた。「終い支度」は元気な内に、と考え書斎の棚を整理していると、約30年前の赤茶けた新聞の切り抜きが出てきた。「絵筆は心」の見出しで35才の若さでその生涯を閉じた女流画家・三橋節子を紹介している。利き手である右腕を病魔に奪われた彼女は、常識を打ち破り奇跡とも呼べる再起を成し遂げたのである。リハビリテーション(本来あるべき状態への回復)の第一歩で六ヶ月はかかるという左手での字の練習を一ヶ月足らずで仕上げ、半年後には細かい線までハッキリと描きあげた入選作を完成させたのである。また、治療のために投与される薬剤の影響で、毎日束のような髪が抜けていくことの悲しさにも「恥じらいとも悲しみともつかぬ笑み」を浮かべるだけで、苦情らしい言葉は一言も口にしなかったと言う。逆境(苦勞の多い身の上)を跳ねのけて希望を捨てずに見事に生き抜いた彼女の姿の中にこそ、精神的な逞しさを感じ取ることができる。

ところで、塾生の皆さん方は普段どのような勉強方法をとっているのでしょうか。自らを特に厳しい局面に追い込むことで、精神の逞しさが育まれていくのではないかと考えています。もしかして皆さんは「楽な勉強」に逃げ込んではいないでしょうか。得意な教科を優先させることで試練を避けて通ったのでは、本番で通用する底力を養うことはできません。先ず目標をしっかりと定めて、着実に歩み続けることとです。そして、その目標を突破するためには、眠さや、やりたいことを我慢してでも全身でぶつかっていく気概がなければなりません。その途中でどんなに辛くても目標を諦めないことです。

皆さんがやがて迎える入試のゴールは合格ではないのです。合格のさらに向こうに待ち構える困難や苦勞の中で、自らを厳しく鍛え抜く「人間修練」こそ、そのめざすところでなければならぬのです。

まもなく夏休みが終わります。この休みをどう過ごしましたか。リオ・オリンピックでの日本人の活躍に感動した人も多かったのではないのでしょうか。

いよいよ二学期が始まります。気持ちを切り替え、文武両道(勉強と運動の両立)をめざして「仁の心」を念頭に置いた質の高い日常生活を送ってほしいと願っています。

※ お知らせ

9月の論語塾は、9月17日(土)に行いますが、開始時間はいつもより1時間早まって午後1時からです。間違いのないようお願いします。終了はいつもより15分程度遅くなり、15時45分の予定です。

理由は坐禅三昧・論語三昧そして懇談会を行うためです。
なお、論語三昧(論語に熱中して楽しむ)では小・中・高の塾生の皆さんに先生の代わりに講義を行ってまいります。また、論語暗唱大会では何人かの塾生の皆さんに暗記した章句の素読をやってもらいますので楽しみにして下さい。